

平成26年度国際ボランティア貯金センターの支援にかかる
「NGO講演会等概要レポート」

一般財団法人ゆうちょ財団
国際ボランティア貯金センター

国際ボランティア貯金の寄附金の配分を受けているNGOが学校、地域団体等で、国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、当該団体の海外での事業活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

概要は次のとおりで、申請により当国際ボランティア貯金センターで審査しました。

なお、対象となる平成22年度から平成25年度に寄附金の配分を受けた団体及び平成25年度または平成26年度NGO海外援助活動助成事業の助成を受けている団体には、実施のご案内を文書で通知しました。

○助成する金額は、講演会等1回につき所要経費のうち5万円を上限。

・ただし、助成回数は1団体につき1年1回。

○助成の対象とするのは、次の講演会等とします。

- ・国際ボランティア貯金の寄附金の配分を平成22年度から平成25年度に受けている団体及び平成25年度または平成26年度NGO海外援助活動助成事業の助成を受けている団体の講演会等であること
- ・参加者（児童・生徒等を含む）が概ね30人以上見込まれる講演会等であること
- ・平成26年4月から平成27年2月末日までに開催する講演会等であること

○平成26年度は11団体へ助成しました。

Index

1	特定非営利活動法人日本チェルノブイリ連帯基金	1
2	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	3
3	特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター	5
4	特定非営利活動法人地球の友と歩む会	7
5	公益社団法人アジア協会アジア友の会	9
6	特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会	11
7	認定NPO法人アジア教育友好協会	13
8	特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン	15
9	スリヤールワ スリランカ	17
10	特定非営利活動法人国際交流の会とよなか	18
11	特定非営利活動法人アジア・アフリカとともに歩む会	21
12	アンケート結果	23

(50 音順)

特定非営利活動法人 日本チェルノブイリ連帯基金

1. 開催日：平成 26 年 4 月 26 日
2. 開催場所：M ウイング（松本中央公民館）視聴覚室 3-B
3. テーマ：「ウクライナ報告 チェルノブイリ原発修復工事と避難民、そして子ども達」
4. 講師：①国井 真波（看護師・JCF 理事）
②横内 香苗（JCF スタッフ）
③森田 博紀・石川 圭佑（JCF チームめとば）
5. 参加者：36 名
6. 内容：講演① 「ウクライナ報告」
講演② 「福島支援報告」
講演③ 「食品放射能測定の 2 年間のまとめ」

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

1986 年 4 月 26 日に起きたチェルノブイリ原子力発電所の事故による放射能被災地の子ども達を救おうと 1991 年から活動している JCF/日本チェルノブイリ連帯基金は、毎年この近日にメモリアルイベントを行っている。今回は、昨年 12 月にウクライナの放射線医学センター、ジトミル地区病院、チェルノブイリ原発、ゼムリャキを訪問した。その報告と福島支援報告を一般市民対象に行った。

#### (1) 講演①「ウクライナ報告」国井 真波（看護師・JCF 理事）

- ・チェルノブイリ原発建屋内部の状態と修復工事の問題点。
- ・汚染地帯の子ども達の健康状態と放射線との因果関係
- ・原発労働者の街から強制移住した方たちが、「ゼムリャキ」という団体を作り、助け合っている。自助・互助の活動を紹介した。

#### (2) 講演②「福島支援報告」横内 香苗（JCF スタッフ）

2011 年 3 月 20 日、福島第一原発事故直後から、JCF は福島県南相馬市に入り、妊婦さん・子ども達を守るために、活動している。外部被曝を防ぐためのガラスバッジ・ガイガーカウンターの貸し出しから見てきた保養の必要性について事例を報告した。

#### (3) 講演③「食品放射能測定の 2 年間のまとめ」森田 博紀・石川 圭佑（JCF チームめとば）

信州大学理学部大学院生による「チームめとば」は、2 年間で約 1000 の食品や土壌の放射能測定を行ってきた。データを整理し、氏名公表を承諾する依頼者が増えてきていること、セシウムが検出された食品はキノコが多かったことなどを報告し、今後は山野草、ジビエ、キノコの測定に取り組んでいくことを発表した。

### 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：原発事故被災者のための診療、医療機器・医薬品の配備、医療技術の指導
- 実施期間：平成 2 年 4 月から平成 15 年 3 月
- 実施地域：ベラルーシ共和国



## 公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

1. 開催日：平成26年5月29日
2. 開催場所：真生会館第1会議室（新宿区信濃町）
3. テーマ：「ライフストーリーから知る、現地の今」
4. 講師：①ウェン職員／ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所 総務コーディネーター  
②カムコン職員／ラオス事務所 プロジェクトマネージャー  
③ヴィチェット職員／カンボジア事務所 マネージャー  
④スルタナ職員／アフガニスタン事務所 図書館事業担当
5. 参加者：47名
6. 内容：講演①「アイスブレイク：4か国からのクイズ」  
講演②「4か国の現地職員からのプレゼンテーション」  
講演③「質疑応答：4か国に分かれてのグループワーク」

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

### 講演会内容

#### ■講演概要

現在、シャンティ国際ボランティア会では、国内外の7つの国と地域で約180人の職員が日々の活動に勤しんでいます。全ての職員がシャンティと出会うまでには、それぞれが辿ってきた自分だけの道がありました。2014年5月、カンボジア・ラオス・ミャンマー（ビルマ）何人キャンプ・アフガニスタンの4つの事務所から、現地職員が来日にし、シャンティに出会うまでの道のりと、彼らのシャンティとの「これから」をライフストーリーとして、日本の皆さんにお伝えします。

##### (1) 講演①「アイスブレイク：4か国からのクイズ」

講師：ウェン職員、カムコン職員、ヴィチェット職員、スルタナ職員

（各職員の所属・肩書は、上記「4. 講師」をご参照下さい。）

報告会の導入のアイスブレイクとして、現地職員からのクイズを行いました。ミャンマー（ビルマ）難民キャンプは難民キャンプの様子を知る内容、ラオスからは国の規模を知る内容、カンボジアとアフガニスタンからは事業と生活に関する現地語を知る内容のクイズが、彼らの母語で出題されました。初めて見聞きする言葉とクイズの内容を参加者の皆さんが楽しんでいる様子が見られました。

##### (2) 講演②「4か国の職員からのプレゼンテーション」

講師：ウェン職員、カムコン職員、ヴィチェット職員、スルタナ職員

4か国それぞれの現地職員から、国概要と活動に続き、シャンティに入職する以前のこと、入職したきっかけ、そして、プレゼンテーションの最後には、今後もシャンティの教育支援活動を通じて、自国の人々と日本の人々と共に、子どもたちの教育の改善に向けての思いが伝えられました。

##### (3) 講演③「質疑応答：4か国に分かれてのグループワーク」

講師：ウェン職員、カムコン職員、ヴィチェット職員、スルタナ職員

前プログラムのプレゼンテーションを受けての質疑応答を、4か国ごとのグループに分かれて行いました。グループ形式で行った理由は、報告会の参加下さった方々に現地職員をよ

り身近に感じて頂くためです。現地職員を輪になって囲んでくださった参加者の皆さんからは、大変多くの質問とコメントを頂きました。

#### 参加者の感想

「現地の方々のシャンティでの活動に対する熱い思いを感じることができました。また各国の現状もよく分かりました」

「本が持つ教育の力を改めて感じました。ありがとうございました」

「（質疑応答が）小グループで直接話を聞いたのがとても良かった」

「海外のスタッフと直接話せる、声が聞ける機会はなかなかないのでよかった」

「時間が短かった」

#### 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

■支援事業：難民キャンプの図書館修繕及び運営研修

■実施期間：平成23年4月から平成24年3月

■実施地域：ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ



↑ ヴィチェット職員／カンボジア



↑ スルタナ職員／アフガニスタン



↑ カムコン職員／ラオス



↑ ウェン職員／ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

## 特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター(JVC)

1. 開催日：平成 26 年 6 月 10 日（火）
2. 開催場所：ラーニングカフェ（東京都台東区上野 5-3-4 クリエイティブ One 秋葉原ビル）
3. テーマ：「パレスチナ・ガザ最新報告」
4. 講師：①金子 由佳（日本国際ボランティアセンター ガザ現地調整員）  
②岡 真理（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）
5. 参加者：45 名（外部 36 名、JVC 関係者 9 名）
6. 内容：講演①「パレスチナ自治区概要、JVC による現地事業について」  
講演②「ガザ最新報告」

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

### 講演会内容

#### ■講演概要

パレスチナ自治区の一部であるガザ地区は、地中海に面した 10km×40km の小さな地域である。2012 年 11 月に起こったイスラエル軍による大規模空爆の後、停戦となってはいるが、日々の攻撃は止んでいない。2006 年から継続する封鎖状況に加えて、隣国エジプトのクーデターや政変が地域の不安定さを招き、人々に更なる苦難を強いている状況にある。安全の欠如や物資不足、そして食料不足からくる栄養失調に苦しむガザの人々に対し、JVC では女性や地域のエンパワメントを通じた子どもの栄養失調予防事業を続けてきた。講演会では、まず JVC のガザ現地調整員からパレスチナ問題の概要や、JVC が行ってきた現地事業について報告した。また今春にガザを専門家として視察した京都大学の岡真理氏から、現地の生の姿を伝えた。

- (1) 講演①「パレスチナ自治区概要、JVC による現地事業について」金子 由佳（ガザ現地調整員）
- 宗教紛争として見られがちなパレスチナ問題だが、「土地争い」としてイスラエルという国家が占領地の人々を様々な面で抑圧しているのが問題の現状である。封鎖されて人や物資の出入りが極度に制限されたガザ地区では、人々の栄養失調が著しい。そのような中、JVC はドナーの協力を得て、現地の NGO「人間の大地」とともに子どもの栄養失調予防活動を行ってきた。根本原因である政治についても、JVC は政策提言を行っている。

- (2) 講演②「ガザ最新報告」岡 真理（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

「パレスチナ問題」「ガザ地区の問題」というと多くの人々は人道危機を思い浮かべるかもしれないが、これは単なる人道危機の問題ではなく、むしろその言葉で政治的問題や人々の無関心を覆い隠してはいけない。ガザは本来日本の地方都市のように発展している場所であり、人々は日本の我々と同じように生活しているにも関わらず、大国の意図、政治的な問題によって権利を抑圧されている。これは構造的な暴力に人々をさらしているのであって、仮にその状況を知った外部の人々が沈黙したならば、彼ら自身も構造的暴力の一部となって、パレスチナの人々を苦しめてしまうことになる。人道危機にあえぎ、援助を必要としている人々に寄り添いながらも、根本的な原因に対し私たちはアクションを起こさなければならない。



—岡さんのお話はガザの問題点を鋭く突いていた（今までこれだけはっきりした主張ははじめてかも）と思いました。これをベースとして今後もガザについてウォッチしていこうと思います。

—今まで認識のなかった、人権問題としてのパレスチナ問題を知ることができた点、有意義でした。

—パレスチナ問題の認識がかたよっていたことがわかりました。目に見えるものに意識が行きがちだと反省しました。もう少し勉強しなくてはと思いました。ありがとうございました。

—メディアへの疑問は常に感じておりましたが、今日お話をきいてやはりメディアの報道する基準はおかしいと改めて感じました。同じ世界に生きる人として知っておかなければならないこと、向き合わなくてはならないことはたくさんあるはずなのに、それを伝えるべきものはずなのに、私も含めて、人権に関する感覚がマヒしていると感じました。

—ガザへの支援本当に必要なものだと感じました。また講演会があれば参加したいです。

#### 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

■支援事業：子どもの栄養改善支援（ガザ地区）

■実施期間：平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月

■実施地域：パレスチナ自治区・ガザ地区北部ジャバリヤ市ビルナージャ



## 特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

1. 開催日：平成 26 年 6 月 23 日（月）
2. 開催場所：香川大学法学部第一講義室
3. テーマ：インド農村開発の実情と成果
4. 講師：米山 敏裕（地球の友と歩む会、事務局長）
5. 参加者：40 名
6. 講演内容：

当会が平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月南インド、タミルナドゥ州デバトール村、コタヤム村で国際ボランティア貯金の助成事業としておこなった農村開発事業を紹介するとともに、インドでの開発の成果や難しさについて講演をしていった。

事業を行うにあたっての現地の背景、生活状況を紹介、現地にどのような問題が発生しているかを、またどのような活動をすすめていったか、その波及効果としてどのようなことがあったかを講演した。

開発むずかしさでは農村部でのトイレづくりを例にとりあげて講演した。現地では長年トイレのない生活をしていて、開発の主体である先進国の価値観も押しつけや文化の考え方からトイレづくりを推進していくが、多くが失敗して資金などが無駄になっている。それは現地の人々がトイレの必要性に気付かればトイレづくりは行わない。ではどのように衛生状態を改善していくためにも、病気になる人々減らしていくかは時間をかけて研修などをおこない、住民が意識として変わっていかなければ行動に移さないものである。これらのことは当会がインドでおこなってきた支援事業で得られた教訓である。

昨年度おこなった事業では教訓を生かして住民の気持を促す研修や対話を住民と時間をかけておこない、かつ信頼関係を築きながらすすめてきた。

このような現場を訪れるスタディツアーを当会は毎年実施しているので参加してみることで国際協力のむずかしさ、なにを大切に、そして尊重しておこなっていかなければならないか、外部者の役割などを学ぶことができるので、ぜひとも参加されることをおすすめした。

アンケートにある、ボランティア貯金の存在について知っている学生は皆無であった。

NGO の活動もボランティア貯金制度によって多くの資金が助成されて運営されてきたことも併せて案内していった。

### 講演会活動写真①②

法学部 1 年生を対象にしたアジア太平洋地域学のクラスで（平和学を学ぶ学生も含む）おこなった。



### 講演会活動写真③

講演をする米山 敏裕

## 公益社団法人 アジア協会アジア友の会

1. 開催日：平成 26 年 6 月 14 日
2. 開催場所：大阪科学技術センター 8 階 中ホール
3. テーマ：「海外プロジェクト報告会」
4. 講師：①Ms. ネリー レクトラ (AFS-パンダン 代表)  
②熱田典子 (公益社団法人アジア協会アジア友の会 副事務局長)
5. 参加者：85 名
6. 内容：講演①「フィリピン台風「ハイエン」被災者支援プロジェクト」  
講演②「バイオガスプラント設置と児童環境教育を通してのネパール農村改善支援活動」

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

### 講演会内容

#### ■講演概要

公益社団法人アジア協会アジア友の会 (JAFS) の 2013 年度実施した海外プロジェクトの報告をすることにより、プロジェクトの内容及び実施主旨を多くの市民に理解してもらうと同時に、今後の活動に対しての協力を促す。

#### (1) 講演①「フィリピン台風「ハイエン」被災者支援プロジェクト」

講師名 Ms. ネリー レクトラ氏 (AFS-パンダン 代表)

2013 年 11 月 8 日に発生した台風「ハイエン」の発生後大規模な被害を受けた報告が入ってきたため、緊急支援 (支援物資配布) として 2013 年 11 月 25 日～12 月 8 日まで緊急支援チームを発足させ、最も被害の大きかったレイテ島、サマル島、パナイ島の被災者に対して、緊急支援物資、食料、水などを約 112,000 名に対して配布。その後 2014 年 1 月に被災地復興のため調査を行い、3 月 5 日～4 月 26 日の間、復興支援活動を実施し、漁業支援として、パナイ島アンティーケ州パンダン町 (12 地域)、ティビアオ町 (漁業組合)、バルバサ町でボート、ボート用エンジン、漁網、釣り糸などを台風により失った人々に対して漁業復興のための物資を支援した。その他シェルター建設や農業支援を実施した実施内容に関して、実施団体よりその経過報告と支援に対するお礼。

#### (2) 講演②「バイオガスプラント設置と児童環境教育を通してのネパール農村改善支援活動」

講師名 熱田典子 (公益社団法人アジア協会アジア友の会 副事務局長)

ネパールにおいてバイオガスプラントの設置により、環境保全及び農村生活改善を行うと同時に子ども達への環境教育の実施を行うことで、循環型農村の形成と自立した持続可能な農村地域づくりを目指して実施しているプロジェクトのこれまでの流れ及び本会がこれをネパールで実施する理由や目的の説明。特にネパールの特徴、地理的困難性、その中での日常生活と森林減少率の関係性に対して、バイオガスの利点がある問題がその問題を解決できることにつながる事。

そして、実施において 2000 年より国際ボランティア貯金の配分事業として実施し、昨年度よりゆうちょ財団の助成を受け、コンスタント且つ発展的に実施でき、目標に近づいてきている。

### 参加者の感想

- ・ 国民皆が知ることが必要。特に若い人、学生たちに知ってもらいたい。若い人たちに多く活動してもらいたい。そのために若い時からの意識が必要であると思います。
- ・ 海外での JAFS の活動がよくわかりました。今後ともアジアの国々の人たちが幸せな生活が出来るように少しでも力になればと、思います。
- ・ 参加して、生の声が聞けたのが良かった。理解できました。
- ・ 一人の力は小さなものでも、参加して活動を理解し協力していく人を増やすことに努力して、力を結集することが大切ですね！

### 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

■支援事業：バイオガスプラントの建設並びに環境保全・生活改善指導

■実施期間：平成 15 年 4 月から平成 24 年 3 月

■実施地域：ネパール

バグワティ県バクタプール郡バゲスワリ村／ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村／バグワティ県バクタプール郡スタール村／バグワティ県カブレパランチョーク郡トウクチャ村／バグワティ県カトマンズ郡チュニケル村



ゆうちょ財団 国際ボランティア貯金センター 事務長  
安藝様のご来場くださり、ご挨拶をいただきました。



熱田よりネパールプロジェクト報告



フィリピン台風支援に関する報告をするフィリピンより来日した講師の Ms. ネリー氏



講演会後の会場参加者よりの質疑応答

## 特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会

1. 開催日：平成26年6月21日
2. 開催場所：早稲田奉仕園 リバティホール
3. テーマ：「 駐在員帰国報告会 」
4. 講師：藤崎文子（シャプラニール 海外活動グループ）
5. 参加者：53名
6. 内容：「ストリートチルドレンと共に過ごした10年間」

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

### 講演会内容

#### ■講演概要

バングラデシュ・ダッカの駐在より帰任した藤崎文子が現地でのプロジェクトや、プロジェクトを通じて感じた思いについて講演する。写真や動画もまじえながら、障害者の支援活動や、ストリートチルドレンの支援活動などについて話す。また、合わせてフェアトレード商品やチャリティ商品の販売を行う。最後には質疑応答の時間も作り、参加者の理解を深める。

#### (1) 講演①「ストリートチルドレンと共に過ごした10年間」

講師名 藤崎文子（シャプラニール 海外活動グループ）

- 講演者自己紹介
- シャプラニールについて紹介
- シャプラニールの支援活動・プロジェクトについて
  - ・障害者の支援事業（バングラデシュ）
  - ・ストリートチルドレン支援事業（バングラデシュ）
- 現地での様子、子どもたちの成長を追った映像
- 質疑応答
- 事務局長挨拶
- 写真撮影
- フェアトレード商品販売会

### 参加者の感想

「今後とも機会を作ってシャプラニールのイベントやボランティアに参加します」（30代男性）

「シャプラニールの活動に興味があり、時々ボランティア活動に参加してますが、活動の流れにルいてつながり、より理解できたことがあります」（40代女性）

「現地の人々との連携を重視しその人が自立してやっていける力をつけることで、その地域のために、その国のためになることを願います」（60代男性）

「貴団体の本を拝読いたしました。講演を聞いて、藤崎様は本の中の印象よりはるかに力強く、芯の強さを感じました」（40代男性）

「とても興味深い話でした。少し遅れてきてしまったことを後悔しています。ボランティア貯金、



寄付というのは今の NGO 団体の存続には必須だとは思っています。ただ実際の所、今後ずっと寄付といったもので運営していけるものなのかというところが最近よく思います」(20 代男性)

「問題意識を持って行動すること、状況によって支援を変えることの大切さを感じました」

(20 代女性)

「色々なセクターがそれぞれの役割や使命を持って国際協力を行っていると思いますが、特にシャプラニールさんがやっておられる活動は素晴らしいと改めて感じました。また、人の雰囲気がとても暖かかったです」(20 代女性)

「寄付金は全て自立を拒まないこと、自立を全て自立を支援するものであってほしい」(40 代女性)

「とても興味深いお話でした。私もボランティア活動に参加してみたいと思いました」(20 代女性)

「初めて参加したのですが、プロジェクト内容を詳しく説明していただけてよかったです。ボランティアを行っている NGO は多数ありますが、シャプラニールの理念はとても共感できるものでした。ありがとうございます」(20 代男性)

### 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：バングラデシュ・ノルシンディ県における障害者支援事業
- 実施期間：平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月
- 実施地域：ノルシンディ県ノルシンディ中央郡およびライプーラ郡



## 認定NPO法人 アジア教育友好協会

1. 開催日：平成26年6月27日（金）
2. 開催場所：札幌市立美園小学校
3. テーマ：「東南アジアの子どもたちの生活の現状から考える」
4. 講師：宍戸仙助（認定NPO法人 アジア教育友好協会 参与）
5. 参加者：札幌市立美園小学校5学年児童80名、教師5名、旧PTA役員等2名
6. 内容：講演「ラオスの子どもたちの目の輝きに学ぼう」

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

### 講演会内容

#### ■講演概要

##### （1）講演 「ラオスの子どもたちの目の輝きに学ぼう」

- 1) 自己紹介
- 2) 東南アジアの地図上でのラオスの場所の確認、ラオスの国旗の色について
- 3) ラオスの多くの民族、国の概要、学校が十分に無い状況
- 4) パチュドン村のラップ君が学校にこられなかった訳について考え、話し合う。
- 5) クラスト爆弾の怖さと影響について
- 6) 人々の貧しい生活、子どもたちの生活の現状、食べ物、学校の様子についての紹介
- 7) パチュドン村の子どもたちの瞳の輝きのわけを考え、話し合う。
- 8) パチュドン中学校ができたことにより、子どもたちの将来がひらかれたわけを考える。
- 9) それを知った、福島県東館小の子どもたちの取組（ビデオ視聴）について知る。
- 10) ワンコインスクール、復興の鯉のぼり（ビデオ視聴）について知る。
- 11) ラオスNGO トップのノンさんの言葉「人の役に立つ人になろう」について考える。

##### （2）参加者の感想

- 1) 私は、大人になったら、ラオスの人々や貧しい人たちを助けてあげたいです。
- 2) 大人になったら、ボランティア活動に参加してみたいと思いました。
- 3) すごく理解ができて、とてもよいことだということが身をもってわかりました。そして、このととは、とても必要だと思いました。
- 4) わかりやすく、丁寧に話していただいたので、とても聞きやすかったし、メモもとやすかったです。ラオスの国の人々は、とても苦労して生活しているんだなと思いました。
- 5) ラオスのように貧しい国があることを知ったので、できるだけ協力したいです。
- 6) ラオスと日本はつながっていることを初めて知りました。ラオスの学校は、ノートや教科書もないので、トウモロコシで勉強をしていることがわかりました。
- 7) 平和で豊かなのは、世界でも日本ぐらいだということが分かった。
- 8) ラオスなどの国に学校を作っていることがすごいと思ったし、すごく立派な学校だった。ラップ君には、元気に楽しく学校にいらしてほしい。
- 9) ラオスのほかにもザンビアなどのような貧しい生活をしている人が多い国の人々は、いろいろな



ことに耐えているので、その人たちの生活をちがう国と協力して支え、日本のような国になってほしいし、そのためには一番最初に日本が支援したらいと思います。

10) ラオスのことを知り、とても大変なのだと思います。ラオスに寄付もしたいと思いました。

11) ラオスに寄付金をいっぱい集めて、ラオスをもっといい国にしたいと思います。

## 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

### ■支援事業：

「教育を受けられない地域の中学生のための教室新設及びトイレの増設等施設整備（ラオス・パチュドン村）」

「中学校の増築（ラオス・サラワン県タオイ郡パチュドン村）」

### ■実施期間：平成 21 年度及び平成 22 年度

### ■実施地域：ラオス人民民主共和国 サラワン県タオイ郡パチュドン村



## 特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン

1. 開催日：平成 26 年 7 月 31 日（木）
2. 開催場所：鎌倉市大船行政センター 学習センター 3F
3. テーマ：「ネパール活動報告会とネパール音楽の夕べ」
4. 講師：①氏名 NPO 法人ラブグリーンジャパン スタッフ 鈴木倫子  
②氏名 元神奈川県農協職員 気賀沢 忠文  
③氏名 横浜国立大学 研究生 ビナイ・サンガット  
④氏名 ラジーブ・ラトナ・シャキヤ（通訳・司会）
5. 参加者：40 名
6. 内容：講演①「ネパール活動報告—カブレ郡の事業について」  
講演②「農民のグループ作り」  
講演③「NGO のインターンの活動を通じて」

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

### 講演会内容

- 講演概要 PM6:10 定刻に久保田事務局長司会によって、国際ボランティア貯金配分事業について、本年 5 月までネパールに駐在していた鈴木倫子による事業地での活動報告、気賀沢氏より今後の農民の販売活動に向けてのアドバイス、留学生ビナイ・サンガット氏よりネパールの NGO でのインターンの経験などを発表した。また、現地駐在している相川理事長より挨拶のビデオメッセージを流し、一部を終了。第二部は、プロのミュージシャンによるネパール音楽の演奏。途中休憩を挟み、PM8:30 に終了した。

- (1) 講演① NPO 法人ラブグリーンジャパン久保田の司会により開始。元駐在員：鈴木倫子より平成 26 年度うちょう財団支援事業についての完了報告。アナイコット村の有機農業の拠点として、どのような活動をしてきているか、今後の課題等をパワーポイントを用いて説明した。

講演② 2013 年 12 月に農民の販売促進グループ作りを指導した気賀沢氏より、今後の農民グループの活動の方向性、販売に向けての取り組みなど説明があった。

講演③ 昨年、現地の姉妹団体ラブグリーンネパールでのインターンを通じての経験をビナイ氏より発表。ラブグリーンが実施している農業指導が、農村で大変役に立っていることなどの報告があった。

### (2) ネパール音楽の演奏

ラジーブ・シャキヤ氏が第二部のプロのミュージシャンの演奏の司会、通訳をしながら、ネパールの農村事情が説明された。

今年度で3回継続のラググリーンとプロのネパールミュージシャンとのコラボ報告会が実施できた。年々迫力を増す演奏に参加者の方々は感動していた。報告会後の交流会で、ネパールでの有機農業について関心をもたれた方から質問があり、ネパールや NGO 活動を周知していくためにはこのような活動報告の機会をもつ大切さを感じた。

参加者は日頃当団体へ支援頂いている方々が多かった。このような方々を大切にすると共に今後は報告会に初めて来られた方にも支援の輪が広がっていく、また、開発やネパールに関心のありそうな新たな人たちを呼び込むような工夫をしていきたい。

#### 国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：有機農法及び家畜飼育の指導、農業センターの修復（ネパール国・カブレ郡）
- 実施期間：平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月
- 実施地域：ネパール国カブレ郡アナイコット村

#### 会場の様子：

|                                                                                     |                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   |
| <p>受付</p>                                                                           | <p>ビナイ・サンガット氏の報告</p>                                                                 |
|  |  |
| <p>当日の参加者</p>                                                                       | <p>ウペンドラ &amp; フレンズの演奏</p>                                                           |

# スリヤールワ スリランカ

1. 開催日：平成 26 年 10 月 31 日
2. 開催場所：名古屋市立 猪高中学校 体育館
3. テーマ：「やさしい 国際理解」
4. 講師：① 氏名 服部 和子（スリヤールワ スリランカ 代表）  
② 氏名 服部 義道（同 上 事務局長）
5. 参加者：300 名
6. 内容：講演①「スリランカの衣食住と NGO 活動の紹介」  
講演②平成 25 年度「国際ボランティア貯金寄附金配分事業」について

~~~~~  
講演会内容

■講演概要

スリランカ国の概要。衣食住。子どもの労働等。

日本国民の善意からなる国際ボランティア貯金の配分金を使わせていただいたの現地の支援活動の実態。農村部における「女性の自立のための職業訓練所」。スマトラ沖地震の津波エリアに建設、運営している託児所の様子。支援が入る前と支援後の住民の生活、教育に対する意識改革等。

支援の必要性和国際理解のためにおこなわれる国内活動について等。

- ① 講演 服部 和子(スリヤールワ スリランカ 代表)
スリランカの概要、衣食住と現地での NGO 活動の紹介
スリヤールワ スリランカ 「設立と経緯」
「国際ボランティア貯金寄附金配分事業」について
農村地域に「女性の自立のための職業訓練所」を建設・運営。現在は自立して自主運営。
スマトラ沖地震の津波エリアに託児所を建設・運営。
現在、85 人の 3,4 才児の幼児教育。地域でナンバーワンの託児所といわれている。
支援活動をするにおいて、国際ボランティア貯金の大きな意義、必要性について。
- ② 講演 服部 義道(スリヤールワ スリランカ 事務局長)
平成 25 年度「国際ボランティア貯金寄附金配分事業」について
・事業の対象は、スリランカ東部のハンバントタにある「託児所の建物修繕工事」
・工事の内容 ①託児所屋根葺き替え工事
目的は、教室内の環境改善(暑い・換気が悪い・暗い)
②託児所教室補修工事
目的は、動物侵入防止
・工事後の成果 いずれも目的は、達成された。

特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか(TIFA)

1. 開催日：平成 26 年 12 月 4 日
2. 開催場所：とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ
3. テーマ：平成 26 年度 NGO 海外援助活動報告会：「ネパールの女性たちと共に」
4. 講師：①南 真木人(国立民族学博物館准教授)
②今村 良子(手工芸家)
③島本 真知子(元教師・現織物指導者) 他
5. 参加者：35 名
6. 内容：講演①「ネパールの移住労働の現状—増えてきた女性労働移民」
講演②「ネパール・ドダウリ村での女性の自立支援活動—キルト工芸指導」
講演③「ネパール・サクー村でのダカ織事業報告」

~~~~~ 講演会内容

■講演概要

(1) 講演①ネパールの移住労働の現状—増えてきた女性労働移民—

講師名 南 真木人(国立民族学博物館准教授)

マオイストによる紛争期 1996 年～2006 年があったにもかかわらず、貧困率は 2004 年までに 42%から 31%に減少し、農業労働賃金の上昇、道路網の増進、収入増加(ただし収入格差の拡大)、児童の登校率、子どもの死亡率などが大幅に改善した。これを牽引したのが移民による送金である・・・。渡航先はインドがもっとも多く約 90 万人、カタールとマレーシアが 30 万人、サウジアラビアとアラブ首長国連邦が各 20 万人位・・・1 日に平均 808 人がカトマンズ空港から飛び立った事になる・・・。

女性労働移民が増えてきている：正式には制限があり難しいので、インド経由での非正規出国増加している。入国管理をかいくぐって海外へ家事労働等という形で働きに出る女性達の問題・・・、過重な労働条件など・・・ネパール側、受け入れ国側双方に解決すべき課題がある。

注：(渡航のためのお金が工面でき、つてのある人達は、少しでも生活を良くしようと出国していき、ネパールにとって本当に大切な人たちは帰ってきません。人々の流れは大きくなり、道路は改善され、流通など以前よりスムーズに行くようになりましたが、本当に貧しい人の生活は改善できていません。海外へ行ったら貧しさから逃れることが出来る・・・という噂が私たちが実施している現地の田舎でも広がり、一番の働き手が出稼ぎに行った・・・行っただけで送金もなく、行方不明・・・などのケースが出ています。このため、何とか村の中で生活できる道を造ろうと頑張っています。)

(2) 講演②ゆうちょ助成事業「ネパールの女性の自立支援活動」

講師名 今村 良子(キルト工芸指導者)

26 年 4 月～5 月と 10 月末～11 月に現地に滞在し、キルト製品作りを頑張っている女性達と一緒に過ごし、作成中の物について、一人ずつにアドバイス・指導した様子を紹介。

新しくメンバーになった女性達も仲間からアドバイスを受けながら頑張っているので、少しでも製品の質が向上し、販売できる物になるようこれからも指導を続けていく予定である。キルトバッグ、クッションなどにも制作の範囲を広げる予定である。

(3) 講演③「サクー村での女性の自立支援活動」

講師名(島本 真知子・織物指導者)

サクー村では、現在。縫製作業とダカ織りショール、手編みの手袋、帽子、レッグウォーマーの紹介。販売できるようなダカ織りを作るまでに時間がかかったが、最近は良い物が出来るようになったので、手に取ってみてほしい・・・。

参加者の感想

- * ネパール人の特に移住労働者の実情を知ることが出来た。支援が出来るだけ広く多くの村へ届くことを期待する。
- * 始めてお話を伺いました。お話の内容もとても良かったです。ありがとうございました。
- * たいへん良い活動をされていることがわかりまし。頑張ってください！
- * キルトを制作しているドダウリ村のコミュニティがまとまり、自立への道を歩んでいることを感じた。南先生のお話はネパールの今がよくわかりました。
- * 南先生のお話は非常にわかりやすく、ネパールの知らなかったことを知る機会に恵まれました。
- * 以前から TIFA の活動を使いदैだいており、興味を持っていました。とても地道に着実に活動を続けて感心しています。私も 15 年ほど前にネパールを旅したことがあり、澄んだ目をしていたのが忘れられず、これからも何かお役に立ちたいと考えています。
- * すてっぷのロビーなど、行き交う人がもっと目にする場所で展示されたら尚良かったと思います。(部屋へはいるのは少々ハードルが高いと思いますので) ちらしは公民館などなどだけでなく、ギャラリーなど美術家の所にも奥と良いと思います。援助や支援を知ってもらうのは大切ですが、色やデザインのおもしろさをもっと知ってもらえると良いのでは・・・

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：女性の生活向上のための縫製・パッチワークキルト技術指導(ネパール)
- 実施期間：平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月
- 実施地域：ネパール・ジャナクプール県シンズリ郡ドダウリ村



2014 年 11 月キルト教室



講演：南 真木人 氏



活動報告：今村良子 さん



講演会の様子

特定非営利活動法人 アジア・アフリカと共に歩む会

1. 開催日：平成 27 年 1 月 12 日
2. 開催場所：浦和コミュニティセンター 第 15 集会室
3. テーマ：「南アフリカ民主化 20 年を迎えた子どもたちの今
～何なぜ生きづらいのか、どこへ向かっているのか」
4. 講師：①氏名 サンディーレ・ムカディ（南ア NGO ウムトンボ スタッフ）
②氏名 平林薫（TAAA 南ア事務所代表）
5. 参加者：32 名
6. 内容：講演①「ストリートチルドレンの背景
～都市にやってくる子どもたち、サーフィンを通じた支援～」
講演②「地方の子どもたちの現状
～遠隔地域での子どもたちの生活、学校の重要性、TAAA の活動」

講演会内容

■講演概要

民主化から 20 年が過ぎた南アフリカ共和国は、国力としてはめざましい経済成長を遂げる一方で、HIV 蔓延がもたらす様々な社会問題や経済格差拡大などにより、都会・地方を問わず多くの子供たちはいまだに苛酷な道を歩んでいる。南ア NGO による、の都心にストリートチルドレンへのサーフィン指導の様子と、TAAA の貧困地域の学校支援活動を紹介し、都会と地方の子供たちの現状を伝え、希望に繋がる支援の仕方を探った。

- (1) 講演①「ストリートチルドレンの背景 ～都市にやってくる子どもたち、サーフィンを通じた支援～」サンディーレ・ムカディ（南ア NGO ウムトンボ スタッフ）

近郊や遠隔地域から様々な事情をかかえた子どもたちが都会にきて、ストリート生活を始める。彼らが家を出る大きな要因は貧困で、家に食べるものがないので生きのびるためにストリートに出る。また、親の病死など家が保護者不在になりストリートに出るケースも多い。彼らの背景を事例を挙げて説明し、彼らを保護しケアをする NGO・ウムトンボの取り組みを紹介した。心理学を用いて、受け入れる子供たちの正確を 5 つに分類して各々に適切なアプローチを試みていることや、暇があればドラッグに走りやすい彼らを有意義な活動で忙しくさせるための様々なプログラムなど、画期的な取り組みが紹介された。サーフィンを通して矯正され、ストリートから抜け出せた成功例も語られた。

- (2) 講演②「地方の子どもたちの現状 遠隔地域での子どもたちの生活、学校の重要性、TAAA の活動」平林薫（TAAA 南ア事務所代表）

民主化 20 年を迎えた南アフリカは国力としては発展したが、都市と地方間の格差が広がり、方は生活が困窮し子どもや若者が希望を持ってない状態になっている。そのような地方の貧困地域での子どもたちの様子を、TAAA の学校支援活動の紹介を通して伝えた。

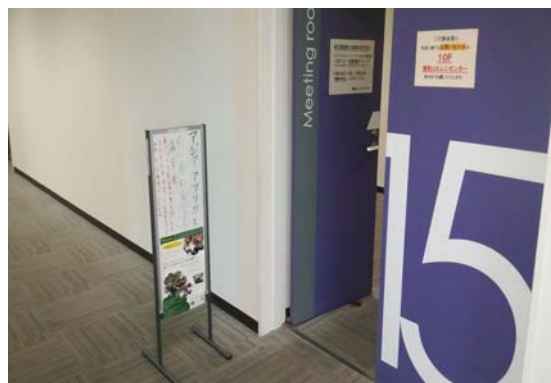
支援対象地域であるクワズールーナタール州ウグ郡は、さとうきび大農園が広がる遠隔地域で、

農場での季節労働以外に仕事がないため、親は都市に出稼ぎにいったきり戻らないケースが多く、ほとんどの子供たちは僅かな年金で生活する祖母に育てられている。祖母は老齢なため子どもたちへのケアが不十分で学校との連携・連絡も難しい。学校を卒業した若者は、地元で仕事が見つからず希望を持てずにいる。また、アパートヘイトの負の遺産として、自尊心が低く、自分たちの力で何かをする自信がない。このような状況のなか、TAAA が現在、郡内3地域で40校を対象に行っている、菜園プロジェクト、図書支援プロジェクト、サッカープロジェクトの活動を図書支援プロジェクトを中心に、生徒たちの視線で説明した。

平成24年度国際ボランティア貯金の寄附金の配分を受けて行った事業のお陰で、ほとんど図書室がなかった対象校に図書室が配備され環境が整った。そのため、現在は、各学校の図書活動が図書委員会を通して活発に行われるようになってきている。生徒たちが中心になって設置した図書室などを紹介し、まだ支援は必要であるが、少しずつ図書活動が根付き、自立へ向かっている状況を説明した。参加者からは、「20年前の南アフリカの学校と比較すると、図書活動に関しては大きく進展しているのがわかる」といった20年間のTAAAの活動を評価する声や、「学校に図書室を設置する法律が必要だ」と法整備に関する意見まで、様々な意見や質問が出た。

国際ボランティア貯金の配分事業の概要

- 支援事業：基礎教育支援のための学校図書室の配備と巡回指導
- 実施期間：平成25年4月から平成26年3月
- 実施地域：南アフリカ共和国クワズールーナタール州ウグ郡ムタルメ・トゥートン学区



NGO講演会 アンケート集計結果報告書

【全体:425名回答】

Q 1 : 開発途上国への支援については、国同士が行っているほかに、本日の講演会等のようにボランティア団体(NGO)が住民等を対象とした支援・援助を行っていることを知っていましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	知っていた	228	54
2	知らなかった	196	46
3	未回答	1	0

Q 2 : 本日の講演の事業は「国際ボランティア貯金」の寄附金の配分を受けて実施されましたが、事業内容について理解できましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	よく理解できた	199	47
2	まあ理解できた	208	49
3	理解できなかった	10	2
4	未回答	8	2

Q 3 : 今後いろいろなボランティア団体が開発途上国の住民等へ支援・援助することは必要だと思いますか。

回 答 内 容		回答数	%
1	必要だと思う	405	95
2	国同士で行うだけで十分	8	2
3	分からない	11	3
4	未回答	1	0

Q 4 : ボランティア団体は寄附金の配分を受けて活動している話をしましたが、今後も寄附によりボランティア団体を支援する制度は必要だと思いますか。

回 答 内 容		回答数	%
1	とても必要だと思った	304	72
2	まあ必要だと思う	113	27
3	特に思わない	3	1
4	未回答	5	1

Q 5 : 今日の講演を聞いて、自分も寄附をしたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	したいと思った	298	70
2	特に思わなかった	58	14
3	すでにしている	66	16
4	未回答	3	1

Q 6 : 今日の講演を聞いて、ボランティア活動に参加してみたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	したいと思った	259	61
2	特に思わなかった	104	24
3	すでにしている	56	13
4	未回答	6	1

年代別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	未回答
	68%	7%	3%	4%	6%	6%	4%	2%

男女比	男性	女性	未回答
	51%	47%	2%

【講演会の感想（抜粋）】

- ・ 海外プロジェクト報告は具体的で現地の声がよく届き、とても分かりやすかった。(60 代/女性)
- ・ 今日お話を聞けて、自分があまりにも知らないことに改めて気付きました。良いきっかけになりました。(30 代/女性)
- ・ 帰国報告会ということで、現地での生の声を聴くことができ、大変興味深いお話でした。(20 代/女性)
- ・ 自分も NGO に入りたいと思った。それで貧しい国のために働きたい。(10 代/男性)
- ・ 以前、フェアトレードの会社に勤めており、国際協力に興味があったが、学校での菜園活動、図書支援という地道な、且つ実用的な協力をされている様子が分かった。日本の教育現場との連携、生徒同士の交流などの可能性も面白いと思った。(30 代/女性)
- ・ 問題意識を持って行動すること。状況によって支援を変えることの大切さを感じました。ありがとうございました。(20 代/女性)